

2.24 リスクの説明

「リターン-リスク」または「リターン-リスク × 2」が損失の目安
2項モデルのケースを拡大していくと、リスクとリターンの関係を理解することができます。リターンとは実際に起こりうる騰落率の代表値（平均値）になっており、リスクはそのばらつきを表す指標です。そのことから、「リターン-リスク」または「リターン-リスク × 2」を損失の目安とすればよいことがわかります。

2.24.1 拡大した2項モデル

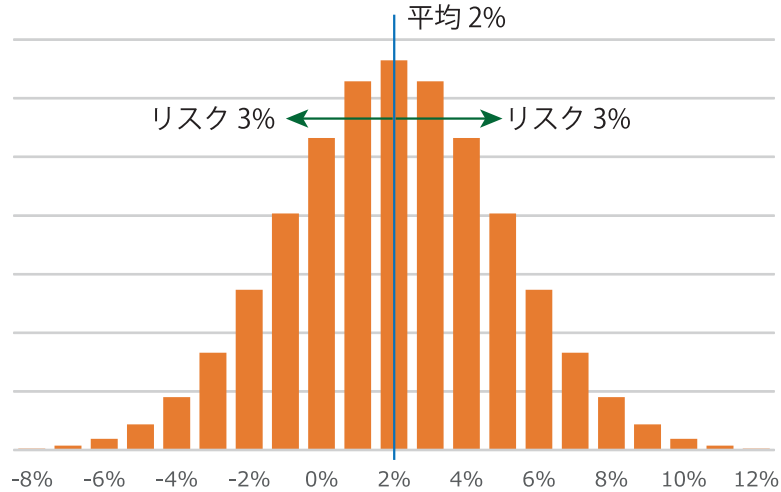
リターンを日本語にすると「期待収益率」、リスクは日本語にすると「標準偏差」になります。リターンとは、たくさんある経路の代表値になっています。図 2.23 は、2.23 と同じケース（リターン 2 %、リスク 3 %）の場合の経路の出現回数をグラフにしたものです。横軸が実現した騰落率。縦軸はその発生する頻度です。もっとも低い騰落率（実際の利回り）は -8% です。もっとも高い騰落率は 12% です。しかし、-8% も 12% もほとんど発生しないことがわかります。

2.24.2 リスクとリターンを使った損失の目安の説明

資産運用でリターンとリスクを上手に使うって将来の状況を説明するには次のように説明します。

リターンは将来起こるべき可能性（すべての騰落率）の平均を表しています。したがって、リターン 2 % というのは、すべてのケースの平均が 2 % になっているという意味です。そして、すべての騰落率のブレの程度がリスク（標準偏差）になります。「最悪どの程度になるのか？」という質問があるかもしれませんが、じゃんけんを何度やっても負け続ける可能

図 2.23 騰落率の分布



性があるのと同じで、考えてもきりがありません。そこで、リスクを使って説明します。リターンからリスク分だけ離れた範囲を作ります。この範囲の中に本当の騰落率が落ち着く可能性が 68%、リターンからリスクの 2 倍離してあげればその可能性は 95% です。「リターン-リスク」または「リターン-リスク × 2」が損失の目安と考えればよいのです。

図 2.24 リスクと騰落率の関係

